



後藤ゆう子の 議会の質問から

◎コロナ禍が女性に深刻な影響 市は適切な支援を

新型コロナウイルス感染症は雇用に大打撃を与えています。女性は非正規労働者の割合が高く、とりわけ従来から半数以上が相対的貧困のシングルマザー世帯は、自宅待機や解雇で収入が激減し、コロナによる休校で食費の急増が追い打ちをかけました。

また生活面でも、DV相談や中高生からの望まぬ妊娠相談が急増しました。8月の女性の自殺者数が前年比で1.4倍との見過ごせない報道もありました。市には現状の相談支援に加え、これらの実情を踏まえた適切な女性支援を求めています。

◎自治体が率先して温暖化対策・ エネルギーシフトに取り組むべき

温暖化による気候変動で、気象災害の頻度が増し激甚化しています。西東京市も化石燃料の使用を減らし、気候変動対策を進める主体として率先して行動すべきです。

市の公共施設で使用される電力を、環境にやさしいエネルギーに転換することには大きな意義があります。どの電力を選ぶかは競争入札で決まりますが、最後は価格が決め手になってしまいます。価格だけでなく、環境配慮項目を点数化する総合評価方式の導入や、姉妹都市などと連携して、地方で発電された再生可能エネルギーを買い取ることを提案しました。

その他の質問 プラスチックごみ削減について／市民相談について／特別職のハラスメント研修／市民まつり等イベント時のリユース食器の活用について／ふれあい収集の状況／創業サポート施設運営支援の総括／めぐみちゃんメニュー認定事業支援委託について ほか



かとう涼子の 議会の質問から

◎滞納から見える 「生活困窮のシグナル」を放置しない！

コロナによる経済危機は、リーマンショックをはるかに凌ぐと言われていています。すでに市の窓口には「国民健康保険料が払えない」「市税の納付を猶予してほしい」などの相談が数多く寄せられています。

一方、西東京市の滞納整理は厳しさを増し、2019年度の財産差し押さえ件数は国保滞納で646人、市税で1,121件にのぼります。財産を差し押さえられてしまう人の中には、多重債務や家庭の問題を抱える人がいることも危惧されます。コロナ禍の中、滞納を「生活困窮のシグナル」と受け止め、相談支援、生活再建につなげるよう求めています。

◎介護を担う若者 ＝ヤングケアラーへの支援を！

世帯が縮小する中、病気や障害のある家族の介護を担う子ども・若者＝ヤングケアラーが増えていきます。学業、部活、将来の進路に支障をきたす場合も多く、子どもの多くが「介護は家族の問題」と捉え、困っても誰にも相談しないことが、経験者の発信から明らかになっています。

市内での実態調査を求めましたが、市の答弁は後ろ向きでした。しかし10月に入り、厚生労働省がヤングケアラー実態調査を行う方針を発表。支援策の検討に欠かせない実態把握を引き続き要望すると共に、生活者ネットも独自の調査を進めることにしました。

その他の質問 GIGAスクール構想と1人1台タブレット／ディスクシアの子どもへの合理的配慮／住まいの支援／生活保護受給バッシング問題／障害者の移動支援サービス／深刻化する高齢者のフレイル／高齢者配食サービス／地球温暖化防止と森林環境譲与税 ほか

ご意見、ご要望お待ちしております。 TEL 042-453-4121

発行責任者：後藤ゆう子（市議会会派：生活者ネットワーク代表）
〒202-0015 西東京市保谷町6-25-1-102（会派事務所）
TEL：042-453-4121 FAX：042-410-0014
発行日：2020年10月26日
後藤ゆう子HP <http://goto.seikatsusha.me/>
かとう涼子HP <http://kato.seikatsusha.me/>



生活者ネットワーク 3つのルール

選挙はカンパとボランティアで行います。

議員は最長3期でローテーション。
議員を職業化せず、誰もが議員になることで特権化しません。

議員報酬は市民の活動資金として使い、お金の流れは公開します。